



三春中学校だより

第 49 号

発行日 平成 30 年 12 月 12 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【「わかった。」「できた。」が聞きたくて！ ～授業研究に積極的に取り組んでいます。～】

冬休みを2週間後に控え、三春中の校内では、さまざまな教科において授業を公開し、子どもたちの学力向上にむけた研究授業が盛んに行われています。

シュレッダーの袋を手にした1年数学、少しずつバスケットボールらしくなってきた3年体育、コンビニ経営者のつもりの3年社会、3年間の食育を思い起こさせる3年総合の時間、CGをフルに活用した3年数学、高血圧を心配する2年家庭と、生徒の興味関心を引き出す工夫をし、その興味関心を保ちながら、聞き合い、学び合いを通して、より確かな学力を身につけさせようと努める教科担任の面々のがんばりです。

いずれの授業も参観いたしました。授業者の工夫や配慮に感心すると共に、何より、子どもたちの、学ぼうとする気持ちと態度に感心しきりでした。これからも、子どもたちのために、努力を惜しまず、1時間1時間の授業を大切に、丁寧に、心を込めて授業に取り組んでまいります。



【読書習慣の大切さ！ ～秋・冬の夜長、ディスプレイを本に持ち替えてみませんか。～】

読書の大切さは、今に言われ始めたことではなく、学校教育の中では基本中の基本でした。学校にある図書室は、生徒数に応じてその蔵書数が定められています。学校を営んでいくためには、さまざまな経費がかかりますが、その経費の重要な部分を占めるのが、『図書費』です。本校の図書室には、13,000冊を超える蔵書があり、そこは、不思議な世界や感動の物語、発見の喜びなどにあふれています。人は長生きになったとはいわれるものの、平均寿命は約90年です。本を読むということは、その90年では決して経験できない世界を、紀元前3500年頃のシュメール人による文字の起りから文字によって言い継ぎ、語り継ぎ、現在にまで至る5000年分の歴史や物語を疑似体験することができます。物語を想像しながら読むことで、脳はそれを読む人が体験したと勘違いしながら記憶するそうです。

先日読んだ『本の読み方』で学力は決まる』という本の中に、読書の大切さを訴える表現がたくさんありましたのでご紹介いたします。著者のみなさんが調べたデータに基づき述べているものです。今後の学力アップや豊かなところづくりにつながる部分もございますので、参考にしていただければ幸いです。お子様と一緒に、冬の夜長を本と共に過ごされてはいかがでしょうか。

○ 「平均偏差値50を超えるためには、1日10分以上の読書が必要」

小・中学生4万人の1日あたりの読書時間と平均偏差値の関係を調査したデータ解析では、読書を全くしない子どもたちの成績が最も低く、最も高かったのは読書時間が1～2時間までの子どもたちだったそうです。偏差値50をこえるためには、少なくとも1日10分以上の読書時間が必要ですが、2時間以上の読書は学力には逆効果だとも述べています。また、言語機能の発達のピークは8～10歳と言われているため、若い年齢ほど読書の効果が大きいとも述べています。

○ 「2時間以上勉強しても読書をしないと平均までしか届かない」

読書習慣のある子どもたちは、1日2時間以下の勉強しかしなくとも、読書をせずに2時間以上勉強する子どもたちよりよい成績がとれるというデータがあるそうです。また、読書は、読解力が必要な算数・数学の問題の成績アップには有効だとも述べています。一方で、本の読み方としては、こまめな休憩をとりながら細切れに読書した方が、長時間ぶっ通しで読書するよりも記憶が定着するとも述べています。

○ 「90分周期のレム睡眠中に脳は日中の記憶を整理し定着させている」

「寝る子は育つ」は成人にも当てはまり、睡眠中に分泌される成長ホルモンは、細胞の新陳代謝を促進し、治癒力や免疫力を高めるため、大人にとっても睡眠は必要不可欠なのだそうです。例えば、9時間の睡眠で6回、短い6時間の睡眠で4回のレム睡眠があり、6時間睡眠では記憶を定着させる機会が9時間睡眠より2回少なくなってしまうということになります。また、睡眠時間の短い子

どもたちの脳をMRIでみると、記憶をつかさどる『海馬』という部位の体積が小さい傾向があり、睡眠不足は、脳の発達を遅らせてしまっているというデータがあるそうです。ただ、9時間以上の睡眠では成績が下がるというデータもあるそうです。

○「子どもと大人の脳を鍛える『読み聞かせ』」

読む側の脳では、コミュニケーションに関係する『前頭葉』が強く活動し、一方、聞く側の脳では、『聞く』ことに関係する『側頭葉』、感情反応や記憶に関わる『大脳辺縁系』が活発に動き、温かな、近しい大人の心のこもった読み聞かせが子どもの聞く力や感情に関する脳活動の活性化を促していると述べています。読み聞かせは子どもの感性や想像力だけではなく、子どもの心の基盤となる『自己肯定感』を高めるとも述べています。ただし、スマホの読み聞かせアプリや朗読CDでは効果が低減してしまうとも述べています。

○「親子関係を良好にする『読み聞かせ』」

読み聞かせの時間に応じてお母さんの育児ストレスが低下するというデータがあるそうです。読み聞かせによって聞く側の語彙の増加や聞く力の増大という言語発達が促され、日常生活への適応力が上がり、子どもの不安や抑うつなど感情的な問題が軽減するとも述べています。また、音読による読み聞かせは、読む側の大人の脳の多くの部位を活性化させるとも述べています。

いかがでしたでしょうか。『読書』に関わる部分をいくつかあげさせていただきました。『読書』は、学力にも心の豊かさにもつながるようです。先日は、2年生の新図書委員長さんと、今後の図書委員会活動の在り方等について話し合いの場をもちました。読むジャンルは私とは違うものの、図書委員長さん自身もやはり読書好きで、できるだけ多くの三春中の生徒のみなさんに、本の楽しさ、豊かさ、面白さを知ってもらいたいという願いをもっていました。子どもの学力や心の豊かさに関してはもちろんのこと、中学生や大人にとっても、『読書』はとても大切なものです。ご一緒しませんか！

【年末年始の交通事故防県民総ぐるみ運動！～『ハイビーム 上手に使って 事故防止』～】

12月10日（月）～1月7日（月）までの29日間、『年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動』が実施されています。

10月末現在、県内の交通死亡事故は、61件61人（前年同期比件数11件・死者7人増）です。そのうち、65歳以上の高齢者の死者は37人（前年同期比5人増）、全体の61%をしめています。

そこで、【運動の重点1】高齢者の交通事故防止

年末年始、夕暮れから夜間にかけて、高齢歩行者などが被害に遭う重大事故が多発傾向にあります。午後4時を目安に早めにライトを点灯し（『PM4ライトオン運動』）、車のライトはハイビームを原則にこまめに切り替えし、冬用タイヤでも過信せずに、速度を抑え、ゆとりある運転を心がけてください。プロドライバーが運転するスクールバスでも、もう全車冬用タイヤへの交換がすすんでいます。

そこで、【運動の重点2】夕暮れ時や夜間の交通事故防止

県内の4輪車乗車中の事故死者30人、そのうち9人はシートベルト未装着でした。また、9人中4人はシートベルト着用により救命効果が予想されるということでした。

そこで、【運動の重点3】すべての座席のシートベルト・チャイルドシートの正しい着用の徹底

飲酒運転による交通事故は336件、死傷者78人です。年末年始は飲酒の機会が多いため、『飲んだら乗らない、乗るなら飲まない』を徹底し、飲酒運転を根絶しましょう。

そこで、【運動の重点4】飲酒運転の根絶

年末年始も交通事故『0』で、『みんながね ルール守れば ほら笑顔』といきましょう。

【『三春』のことについて学び、発表しました！～1年生、CGにて発表会。～】

11月21日（水）に、1学年生徒は三春町へと飛び出しました。先日の三春小学校学習発表会で、2年生児童が『町探検』の様子を発表していましたが、中学1年生の視点での地域訪問となりました。その訪問をうけ、見聞きしたことをまとめ直し、整理して、相手意識を明確にもった発表に整理したものが今回の発表会でした。

ワールドカフェ方式の形態を採用し、各班が調べたことを発表し、聞く側がそれに対するコメントを入れるという形態での実施でした。1年生のみなさん、3年間かけて、『生きる力』につながる学びをますます充実させていってください。これからの学びのさらなる深まりに心より期待しています。

